

国語 第4学年 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第4学年下巻の読むことの単元で、同社の年間指導計画例では12月に置かれている。語り手の「ぼく」が、同じ学級の東君と西君の様子が急に変わったことに気づき、その訳を推理していく物語。他社の教科書を使う学校では、手がかりを結び付けて謎を解く物語や、人物どうしの関係が変わっていく物語に置き換える。場面の分け方と手がかりになる叙述は、使う教科書の本文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、物語の中で離れた所に書かれた叙述どうしを結び付けて、人物の行動の訳や人物どうしの関係の変化を想像し、「…の場面の…と、…の場面の…を結び付けると、…と分かる」と説明できる。そのうえで、物語のおもしろいと思ったところを、結び付けた叙述を挙げて友達に伝え、友達と自分とで、おもしろいと思う所や理由が違うことに気付く。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと(1)エ	エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕 (3)オ	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと(1)イ	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
〔第3学年及び第4学年〕 の目標 (2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
〔第3学年及び第4学年〕 の目標 (3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

単元の目標

幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く（(3)オ）。登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで感じたことや考えたことを共有して、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる（C(1)エ・カ）。叙述と叙述を結び付けて読み、おもしろいと思ったことを進んで話し合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ)	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ)	①進んで、叙述と叙述を結び付けながら登場人物の関係の変化を想像し、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったことを話し合おうとしている。

単元の流れ

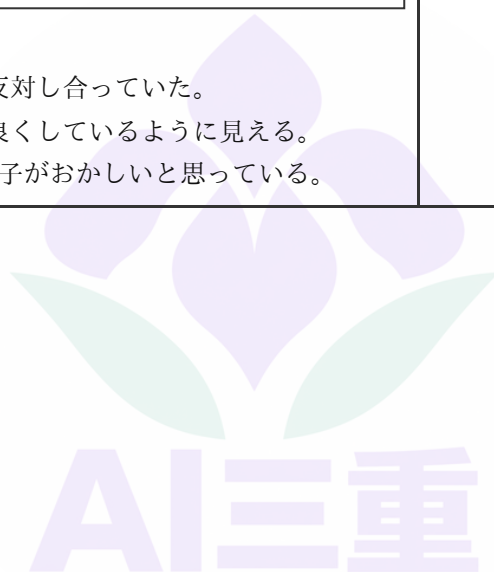
全8時間（読むこと8時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（4年）で、この単元は12月、読むこと8時間。次ごとの内訳（1・4・3）はこちらの案。年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第4学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、初発の感想（おもしろかった所・不思議に思った所）を書く。 ○学習課題「物語のおもしろいところを、叙述と叙述を結び付けて見付け、話し合おう」と学習の計画を確かめる。 ○謎解きのある物語の中から、並行して読む本を選ぶ。	態①（初発の感想・観察）
第2次	2	○登場人物（「ぼく」・東君・西君・中井先生）の性格と、物語の初めの東君と西君の関係を、行動の叙述から確かめる。	
	3	○中井先生の作戦の後、東君と西君の様子が場面ごとにどう変わったかを「様子の変化の表」に書き出し、「ぼく」がおかしいと感じた所に印を付ける。	
	4 （本時）	○「ぼく」が推理の手がかりにした叙述を集め、前の場面の叙述と結び付けて、東君と西君の関係の変化を想像する。	思①（ワークシート・ノート）
	5	○おもしろいと思ったところを一つ選び、結び付けた叙述と理由を挙げて文章に書く。	思①（文章）
第3次	6	○書いた文章をグループで読み合い、選んだところや理由の同じ所と違う所を話し合う。	思②（付箋・発言）
	7	○並行して読んだ本について、謎と手がかりの結び付きのおもしろいところを紹介し合う。	知①（紹介カード・発言）
	8	○全体で、「東君と西君は本当に仲良くなったといえるか」について、叙述を挙げて考えを話し合う。 ○学習を振り返り、叙述を結び付けて読むよさを書く。	思②（発言） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：「ぼく」が推理の手がかりにした東君と西君の行動や様子の叙述を、前の場面の叙述と結び付けて、二人の関係の変化を具体的に想像することができる。(C(1)エ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時の「様子の変化の表」で、中井先生の作戦の前と後の、東君と西君の様子を確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「『ぼく』は、どの叙述とどの叙述を結び付けて、二人の様子が変わった訳を考えたのでしょうか」 【めあて】「ぼく」が見付けた手がかりを結び付けて、東君と西君の関係がどう変わったかを考えよう。 〈予想される児童の反応〉 ・作戦の前は、何でも反対し合っていた。 ・作戦の後、急に仲良くしているように見える。 ・「ぼく」は、二人の様子がおかしいと思っている。	・前時の表を黒板の右側に貼り、「ぼく」が印を付けた所を示す。 ・本時は、推理の答えを当てることではなく、叙述を結び付けて考えることがめあてだと伝える。



段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 一人で読み、「ぼく」が手がかりにした二人の行動や様子の叙述に線を引き、手がかりカードに書き写す。 ○「『ぼく』がおかしいと思った二人の行動は、どこに書いてありますか」 4 手がかりカードを、前の場面の叙述と結び付けて並べる。 ○「この手がかりは、前のどの場面のどの叙述と結び付きますか。結び付けると何が分かりますか」 5 ペアで、結び付けたカードと考えを説明し合う。 6 全体で、結び付けた叙述と考えを発表し、黒板の図に書き足す。 ○「二人の関係は、作戦の前と比べて、どう変わったといえますか」 〈予想される児童の反応〉 ・二人が、いつもと違う物の選び方をしている。 ・二人が同じ時に、同じことを言っている。 ・前の場面で二人が好きだと書かれていた物と結び付けると、わざとそうしているように思える。 ・二人は何かを一緒に隠しているから、一緒にいるのだと思う。 ・隠しごとを守るために一緒にいるだけで、まだ仲良くはなっていない。 ・一緒に困ったことを乗り越えたので、前より相手のことが分かるようになった。 ・本当に仲良くなったかは、最後の場面まで読まない決められない。	・手がかりの叙述と台詞は、使う教科書から先生がカードに書き入れて用意する（本文はここに載せない）。 ・線を引けない子には、「ぼく」がおかしいと思った場面を先生が一つ示し、その場面の中で二人がしたことを探させる。 ・カードを結び付けられない子には、表の前の場面の欄を指して「前はどのようにしていましたか」と聞く。 ・「怪しい」「変だ」で終わる発言には、「どの叙述と、どの叙述から」と返す。 ・関係の変化について考えが分かれば、どちらも叙述を根拠にしていれば認め、黒板の左側に並べて残す。 ・早く終わった子には、「ぼく」の推理に入っていない手がかりが他にないかを探させる。
まとめ (分)	7 二人の関係の変化を、結び付けた叙述を挙げてノートに書く。 (型)「作戦の前、二人は…。…の場面の…という叙述と、…の場面の…という叙述を結び付けると、…と分かる。だから、二人の関係は…に変わったと考える」 8 二人ほどが読み上げる。 9 振り返りを書く。	・振り返りは「叙述を結び付けて考えたこと」と「友達の考えで気付いたこと」の二つの観点で書かせる。 ・次の時間は、おもしろいと思ったところを文章に書くことを伝える。 ◎思① 登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(ワークシート・ノート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付・題名・めあて。その左に前時の「様子の変化の表」（中井先生の作戦の前と後で上下二段に分け、東君と西君を並べる）。中央に手がかりカード（先生が教科書から書き写した物）を貼り、前の場面のカードと矢印で結んで、矢印の横に分かったことを書く。その左に「二人の関係は、どう変わったか」の

問いと、子どもの考え（まだ仲良くない・前より分かり合った・最後まで読まない決められない）を、根拠の場面の番号と一緒に並べる。左端にまとめの文の型と振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は四つ。一つ目、謎の答えを当てることに気持ちが向き、根拠の叙述を挙げずに「怪しい」「たぶん…だ」で終わる。手当ては、発言のたびに「どの叙述から」と返し、手がかりカードに叙述を書き写してから考えを言う順を守ること（C(1)イ）。二つ目、その場面の中だけで考え、前の場面の叙述と結び付けられない。手当ては、第3時に作る「様子の変化の表」を単元の最後まで掲示し、本時は必ず表の前の場面の欄を指して話すこと（C(1)エ）。三つ目、語り手の「ぼく」が見た事と、「ぼく」が推理した事を混せて、推理を事実として話す。手当ては、手がかりカードを「書いてある事」と『『ぼく』が考えた事』の二色に分けること。四つ目、おもしろいと思ったところを「全部おもしろい」とまとめてしまう。手当ては、一つに絞り、その理由を叙述で言える物を選ばせること。並行して読む本で同じ読み方を試させると、教材だけでは分からなかった子も手がかりの見付け方が分かる（(3)オ）。

プリントの案

様子の変化の表（第3時から単元の終わりまで使う）

横に場面の番号、縦に「東君」「西君」「『ぼく』が気付いたこと」の3行。東君と西君の欄は上段に「行動や様子の叙述（書き写す）」、下段に「そこから考えたこと」。中井先生の作戦の前と後の境目に太い線を印刷する。C(1)エを表の形にしたもの。

手がかりカード（本時）

一枚に、手がかりの叙述（書き写す）、場面の番号、結び付けた前の場面の叙述、結び付けて考えたこと、の四つの欄。「書いてある事」は青、『『ぼく』が考えた事』は赤の枠で分ける。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。

おもしろいところを伝える文章の用紙

「おもしろいと思ったところ」「結び付けた叙述（二つ以上・場面の番号つき）」「おもしろいと思った理由」「友達に聞いてみたいこと」の四つの枠。第6時の話し合いで使う。C(1)エ・カに合わせた。

並行読書の紹介カード

本の題名と作者、謎は何か、手がかりはどこにあったか（ページではなく場面の様子で書く）、おもしろいと思ったところ。〔知識及び技能〕(3)オに合わせた。

振り返りカード

「叙述を結び付けて考えたこと」「友達の考えで気付いたこと」の二つの枠と、単元の終わりに書く「物語を読む時に、これから使いたい読み方」の枠。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価規準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（4年）「4年下巻」の本単元の行。単元名・時期（12月）・配当時数（読むこと8時間）と指導目標の指導事項の出典。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第3学年245・第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県教育委員会「みえ地物一番給食の日」にかかる指導案集（平成24年）ほか、三重県で公開されている小学校の学習指導案。見出しの順と表の列の形だけ使った（中身は写していない）（<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000058456.pdf>）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

